



兵庫県西脇市

## ～「霧」を使った新しい栽培方法で育てる～ 濃厚で高糖度トマトの周年栽培

かぶしがいしゃ

株式会社いけうち

WEB サイト：<https://www.kirinoikeuchi.co.jp/lp/kiritoma/>

### 参入法人の概要

法人形態：リース法人

代表者名：代表取締役 岩村 高治

所在地：大阪府大阪市西区阿波座 1-15-15

設立年次：昭和 29 年 11 月

資本金：9,000 万円

農業参入：平成 30 年

圃場：兵庫県西脇市高嶋町

営農形態：施設栽培

主要作物：トマト

経営面積：40a（借入 40a）

主な販売先：流通業者（仲卸→近畿、四国、九州等スーパー）  
直販（直売所持ち込み等）

売上額：2,300 万円（農業売上高）

従業員：10 人（常勤 3 人、非常勤 7 人）

### ●農業に参入した目的を教えてください

株式会社いけうちは大阪市に所在し、産業用スプレーノズル・工業用加湿器ならびに応用機器・システムの製造販売を行う会社で、西脇市に工場があります。

創業者の農業に関わりたいという強い思いがあったことや、産業用スプレーノズルは農業と親和性があり、その技術を基に、セミドライフォグ噴霧水耕システム(IKEUCHIPonics®)、冷房・加湿・薬液散布システム(CoolPescon®)を開発しました。システムの販売と栽培実証のためモデル農場で高糖度トマトの周年栽培を行っています。

### ●当該土地を選んだ理由を教えてください

もともと西脇市に工場が所在しており、何かあってもすぐに人が対応できる工場の近隣での営農を考え、西脇市役所に 40a 規模の営農可能な土地の借用を相談し、紹介を受けました。

### ●当該作物を選んだ理由を教えてください

開発した栽培システムである IKEUCHIPonics®の特長（霧のコントロールによるストレス栽培）と高糖度トマトの相性がよく、また霧を用いた温室内冷房システムを併用することで周年での作型が実現できたため高糖度トマトの生産を始めました。

### ●参入にあたって栽培技術面等の課題にどのように対応されましたか

モデル農場を建設する前段階として、栽培システム開発のため工場の一角に研究用ハウスを建て栽培試験を数年行っており、そこで得られた知見や、大学関連、篤農家、普及所などとのつながりからアドバイスをいただいています。



高糖度の霧のトマト

### ●販売先、販路についてはどのように確保されましたか

展示会等への出展や、スーパー、直売所への飛び込み営業での開拓が中心です。相手によって頻

度、ロットは様々で、定量の契約はしていません。価格設定は高め（1,000 円/kg以上）になるよう都度交渉しています。

農場軒先での販売はお客様からも好評で、手土産用にお求めいただく事が増えています。農場が分かりにくい場所にあるため、地図付きのチラシなどでの PR に力を入れています。

インターネット通販はふるさと納税が年末などに好調な他、リピーターも増えてはいるものの売上の割合としてはまだ非常に小さいです。

### ●農業参入してみて気づいた（参入するまで気づかなかった）のはどのようなことですか

機能性食品のように付加価値を持った商品は、取引価格に優位性があると考えていましたが、仲卸の有無によらず、スーパーへの出荷では価格勝負になることがほとんどでした。品質や食味、機能性などの付加価値や、栽培方法も含めたストーリーをいかにバイヤーや消費者へ伝え、納得してもらい手に取ってもらうか、という点が一番の課題でした。

### ●地域の方や農業委員会、JA、自治体との関係について気を付けていることがあれば教えてください

工場が近くにあり、もともと地域の方とのつながりがありました。

水路の掃除等は、当番が回ってくるので対応しています。また、ファンの騒音の問題などは、集落での話し合いにより理解を得ています。

農場軒先に直売所を設けて1年程経ちます。直売をするにあたって地域から交通量が増えるのではないかという懸念がありましたが、直売を始めてから地域の方が直売所を訪れやすくなり、よりコミュニケーションをとれるようになったことで地域との関係性が更に良くなりました。

### ●今後の経営方針について教えてください

試験農場では、他の品目の栽培試験を行っていて、近隣で新たな作物を栽培する計画はありますが、モデル農場が採算ラインにのっていますので、さらに収益性を高めることを優先することとしています。また、収益性改善や脱炭素を目指し、根域部をダイレクトに加温することにより暖房コストを抑え、農場の採算性を改善する技術を昨年から実装しています。この装置の安定性を高めて経営改善につなげていきたいと考えています。

### ●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

農業は、営農と販売、技術管理のバランスがとれていなければ黒字化することが難しいと感じています。収益に関しては、初期投資が大きい事業なので損益分岐を超えるためには栽培技術や販売のサポートが必要と思います。



「濡れない霧」を噴霧するトマトファーストの温湿度環境



栽培箱の中で養分を含んだ霧を吸う根っこ糖度を引き上げる「水ストレス栽培」